有限会社 アーキテクトタイタン

つながる歴史の最先端

このコーナーでは、京都のまちづくりに取り組む企業・団体をご紹介します。今回は、京町家まちづくりファンドへの寄附をされた有限会社アーキテクトタイタンです。同社代表取締役CEO、リソースアーキテクトの河原司さんにお話を伺いました。

デザインで世界をよりよく

アーキテクトタイタンは「デザインで世界をよりよく」というミッションのもと、WEBサイト制作、ECサイトやSNSの運用支援、売上予算管理/訪問客分析、写真/動画の撮影・編集、グラフィック/印刷物制作、建築、ブランディング、イベントの空間演出などをおこなっています。私は大学入学時から建築を学び、同時にWEB掲載用の商品画像の撮影アルバイトを始め、その傍ら京都の歴史や文化、京町家に深く関わりました。在学中にアーキテクトタイタンを起業したのは、その全てと仕事として長く付き合い続けるためです。そのころからの人とのご縁や知識、経験が、今も事業に深く結びついています。京都の企業や団体様からたくさんのご要望をいただく中で、私自身が１年間かけて茶道、和歌、能楽を習い、それぞれの魅力を広報する「京都留学」を企画したことがあります。京都で生まれ育っても、実際に足を踏み入れないと知ることができない世界を体験したことで、新たな京都の魅力に出会えたと思います。

身近にあった京町家への想い

アーキテクトタイタンのひとつ前の事務所は、自分たちでリノベーションした京町家です。私は京町家への2つの相反する想いを持っています。子どもの頃「母の実家＝祖父母の家」で過ごした懐かしい京町家の思い出と共に残る、ビルに変わったとき耳にした「あんなええ町家やったのに」、「暮らしやすくなった」という周りの大人の二方向の言葉が、自分たちが7年間過ごしたことで実感に変わりました。素晴らしさと維持の困難さの両方を体験したと思います。私たちが移転した後の京町家は、母がゲストハウスに設えなおし、日々国内外の方に楽しんでいただいています。京町家は活用され、知ってもらって、愛されることで守られ存続していくと考えています。その一助になればという想いから、京町家まちづくりファンドに寄附をしました。

歴史と地続きの京都

京都には「自分たちは長い歴史の一部であり、過去から学び、未来につないでいく」という共通認識があるように思います。1200年前に嵯峨天皇と空海によって作られた大覚寺の大沢池景観修復プロジェクトでの経験から、今この瞬間は脈々と続く歴史の最先端であり、これから先も続いていく歴史の１ページだと実感しました。「今のデザインが歴史をつくる/今も昔も戦略が大事」は、私が大切にしているテーマです。

歴史や文化、伝統的な技術に敬意を払い、広く知っていただくことが、これから先の未来に繋がっていきます。今の自分は、歴史の一部なのです。

有限会社 アーキテクトタイタン
代表取締役 CEO、リソースアーキテクト
河原 司 氏

ARCHITECT TAITAN

本社所在地
京都市中京区烏丸通
錦小路上ル東側手洗水町
647 トキワビル3階
HP：https://taitan.jp/

ニュースレター
京まち工房 103
公益財団法人　京都市景観・まちづくりセンター

特集 P2-3
コロナ禍を超えて続く 地域の防災まちづくり

CONTENTS

P4 京町家カルテ事業紹介
P5 景観・まちづくり大学
P6 専門家紹介（まちづくり・京町家）日本建築学会賞（作品）受賞
P7 私と京都／表紙イラスト作者紹介
P8 企業・団体紹介

令和5年度賛助会員募集中！

入会をご希望の方はまちセンにお問合せいただくか、ホームページをご覧ください

賛助団体の皆様			
「京ぐらし」ネットワーク	アルパック 株式会社 地域計画建築研究所	JR this is japan. ISETAN	「価値ある相続」をコーディネート 一般社団法人 相続相談センター
フラットエージェンシー	平安建材株式会社	京都駅ビル	京町家居住支援者会議
京都市観光協会 KYOTO CITY TOURIST ASSOCIATION	ART GALLERY & RENTAL SPACE be-kyoto	株式会社都ハウジング	大阪ガス
一般社団法人 京都府不動産コンサルティング協会	HACHISE 八清（はちせ） 町家・中古住宅	京都信用金庫	SAPPORO
中藏	京都中央信用金庫	住宅金融支援機構 Japan Housing Finance Agency	Sustainable Real Estate 健康不動産株式会社
Akiya Bank 京都			

ニュースレター京まち工房　第103号　2023年6月　　編集・発行：公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

公益財団法人
京都市景観・まちづくりセンター
〒600-8127
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る
梅湊町83番地の1（河原町五条下る東側）
ひと・まち交流館 京都 地下1階
TEL：075-354-8701　FAX：075-354-8704
E-mail：machi.info@hitomachi-kyoto.jp
HP：https://kyoto-machisen.jp
HP
Facebook
京都市景観・まちづくりセンター　検索

※センターへお越しの場合は公共交通機関をご利用下さい。

KES 京都エコマネジメントシステム ステップ１登録
京都市「地域コミュニティ活性化」
この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ！

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

コロナ禍を超えて続く 地域の防災まちづくり

京都市内には、京町家をはじめとする木造家屋が密集するエリアや幅の狭い道や袋路（行き止まりの路地）が散在しており、地震などの災害時、避難や救助に支障をきたすなど防災上の課題が指摘されています。また近年はマンションやホテル等、新しい建物の建設に加え、高齢化や人口減少により町内会の維持が難しくなってきているところもあり、民泊や空き家などの課題に対して町内での対応が難しくなってきています。そのような中で学区全体として防災まちづくり活動に令和2年から取り組み、令和4年度に防災まちづくり計画を策定した下京区・醒泉学区と東山区・粟田学区の2学区の活動を振り返りたいと思います。

醒泉学区の防災まちづくり

互いに助け合い、未来につなげる安心安全なまち

醒泉の名は、源氏に縁のある醒ヶ井という名水に由来します。醒ヶ井は、茶の湯にゆかりの深い京都の三名水の一つとして知られていましたが、戦時中の堀川通の拡幅によって消滅しました。現在は堀川通と五条通が縦横に走り、学区が大きく4つのブロックに分割されマンションやホテルなど新しい建物が道路沿いに建っている一方、一歩奥に入ると多くの袋路が残っており地震などの災害時に堀川通、五条通へ出るまでの避難経路や避難所の下京雅小学校へ至る経路を考えておく必要があると考えられてきました。

こんなことに取り組んできました

防災まち歩き

みんなで学区を歩いて路地や建物などを、防災の視点から現状（課題や資源）を確認しました。

意見交換会

防災上の課題をみんなで共有し、危険箇所の改善や取組の方向性について話し合いました。

防災マップの作成

防災上の課題や資源を学区の地図にまとめ、みんなで共有出来るようにしました。

防災まちづくり計画の検討と策定

災害に強い学区づくりに向けた目標や取組の方針、危険箇所改善に向けた進め方を検討し、その結果を防災まちづくり計画として策定しました。

これからに向けて

策定された防災まちづくり計画書を基に、令和5年度以降は「地域の集合場所プレート」の作成、設置や現在の避難所運営マニュアルの改訂を行い、取組の継続と更なる進化、改善を目指し、各種団体と連携し地震災害に強いまちづくりに取り組んでまいります。

会長から一言　醒泉自治連合会　**渡邉 寛 会長**

皆様のご協力を得て「防災まちづくり計画書」が出来上がりました。この計画書を基に、災害に強い学区を作って行きたいと思います。引き続き「避難場所運営マニュアル」を作成し安心安全な学区を目指します。

粟田学区の防災まちづくり

街並み、路地、地域のつながりを大切にしながらみんなで取り組む防災まちづくり

東山区の北部に位置する粟田学区は、三条通花見小路から東に、三条通沿いを蹴上にかけて横長に広がる学区です。古くは「粟田口」と言われた京都市街の玄関口の一つであり、祇園や岡崎にも近いことから、観光客の往来も盛んな地域です。

建て替えが進んでいる幹線道路沿いや、学区東部の斜面地を除いては、築年数の経った木造住宅や路地・袋路が多く残り、また、コロナ禍前から簡易宿所等が増加していたことから、住民の安心安全に加え、来訪者の避難や災害時の対応が懸案となっていました。

平成24年度から空き家対策を進め、取組が進展した平成31年度は自主的な防災まちあるきなどに取り組みました。令和2年度から、粟田自治連合会（以下「自治連」）と連携している白川まちづくり協議会（以下「協議会」が中心となり、防災まちづくりの取組を始めました。

こんなことに取り組んできました

先進事例の視察

東山区内には、京都市の防災まちづくりの先進地域である六原学区もあり、協議会の役員を中心に視察に伺いました。路地の名付けと銘板づくり、緊急避難扉の設置などの進め方に触発され、取組に対する意識が更に向上しました。

京都市の支援制度の活用

防災まちづくり計画（以下「計画」）の策定を進める中でも、安全性を高める取組が実行され、トンネル路地の耐震・防火改修や除却など、3年間で5件の成果が見られました。

Before

After

これからに向けて

5つの方針と9つの計画で構成されています

計画の実現と、取組の継続に向けて、既に動き出しています。

路地の愛称づくり：六原学区が先駆けとなり広まった取組を、粟田学区でも始めました。自分の住む路地への愛着を高めるとともに、住民同士の交流を促し、ゆるやかな管理ルールにつなげる予定です。

取組体制の進化：計画づくりの中心だった協議会は、自治連とは別組織でしたが、令和5年度から自治連の各種団体となり、名称も「粟田まちづくり協議会」となりました。これにより、他の各種団体とつながりが強化されることで、今後の取組推進への連携・協力が期待されます。

会長から一言　粟田自治連合会　**安田 茂夫 会長**

新たに始まった路地の愛称づくりや、コロナ禍以前から課題であった空き家対策など、新旧の取組を織り交ぜながら、焦らずに計画を実践し、みんなで防災まちづくりに取り組んでいきたいと思います。

令和2年の春、新型コロナ感染症の拡大とともに計画策定の取組が始まりました。

密を避け、周囲との結びつきが弱まることが危惧された中、両学区の計画とも、地域のつながりづくりを計画の第一に掲げ、普段からのご近所づきあいを大切にしながら防災への意識を高め、取組への参加を促しています。

新型コロナ感染症の影響が落ち着きを見せ、再び来訪者が急増する現状を踏まえ、宿泊施設との連携や、近年関心が高まっているマンション防災など、地域の特徴に合わせながら防災力を高める取組が進められています。

自分たちのまちを未来につなげたいという想いを実現するために、まちセンも協力していきます。

京町家カルテ・プロフィール、京建物カルテ 事業紹介

京都市景観・まちづくりセンター（以下 まちセン）は、京都のまちなみ景観を次世代に適切に継承していく手がかりとしていただくための調査資料を作成・発行する「京町家カルテ」事業を平成23年（2011）に開始し、以降、平成28年（2016）から、より短期間で発行できる簡易型の「京町家プロフィール」事業、更に令和元年（2019）から京町家以外の建物向けの「京建物カルテ」事業を実施しています。特に「京町家プロフィール」は、発行件数が飛躍的に増加してきており、令和4年（2022）度は、3つの事業で合わせて発行した調査資料108件のうち、「京町家プロフィール」が全体の87%を占めています。

「京町家プロフィール」は申請受付後、まちセンの担当者が現地に赴き、建物外観の京町家らしい特徴を確認して書き留めます。「京町家カルテ」よりも簡便な資料ですので、申請後2～3週間の所要で発行が可能です。主に融資の根拠資料や売買の際に活用されています。

一方、「京町家カルテ」や「京建物カルテ」は建物や暮らした人の歴史、建物意匠の特徴を後世にもしくは次の住まい手に継承する目的で作成を希望されるケースが多いといえます。

作成・発行の手順

① 依頼者からのまちセンへの事前相談

② まちセン職員による現地確認（室内、室外、庭などの確認とヒアリング実施）

③ 依頼者による申請書の提出

④ 専門の調査員による建物の調査（室内、室外、庭などの確認とヒアリング実施）

⑤「基礎情報」「文化情報」「建物情報」「間取図」の構成※でまとめ上げ発行

※「京建物カルテ」は「文化情報」「建物情報」「図面（配置図・平面図）」のうち、いずれかのみの作成が可能です。

「京町家カルテ」と「京建物カルテ」の場合、③の申請書の提出から発行まで、概ね２～３か月を要します。

令和４年度に「京町家カルテ」を作成したA邸の事例をご紹介します。A邸は約20年間空き家となっていました。祖父の家として遊びに来ていたご親族が、当時の思い出のある町家を昔のように人が集まる場所として活用される希望を持って、まずは手始めに、この家そのものの記録を残したいと、ご依頼いただいたものです。

A邸の外観（表の通りから）

内観（鴨居の上に提灯入れが残っていました）

庭（祠がありました）

A邸の建築年代は完全には特定できませんでしたが、登記簿で少なくとも大正13年（1924）以前の建築であることはわかりました。依頼者への聞き取り調査で、先祖は代々鍛冶屋を営んでいたこと、明治の廃刀令を機に少しずつご商売の形態を変えながら暮らしてこられたことを伺ったことから、その痕跡を探しつつ調査を行いました。専門調査員の豊富な知識、経験をいかし、建築時の時代背景なども踏まえて調査資料を作成することができました。

今後、A邸の継承に京町家カルテが役立つ日が来ることを期待したいと思います。

まちセンは、これからも京都らしい景観がよりよい形で継承されていくことに貢献して参りたいと思います。もし、ご近所やご友人で、「古い歴史のある、愛着のある家を記録に残したい」という声を小耳に挟まれましたら、ぜひ京都市景観・まちづくりセンターのカルテ・プロフィール事業をご紹介ください。

景観・まちづくり大学　開催報告

景観・まちづくり大学は、京都の景観・まちづくりについて多様な視点から学び、考え、実践へとつないでいくことができる人材を育むことを目指し、年間を通じて開催しています。今回は、令和4年度冬季の講座の様子をご紹介します。

京町家再生セミナー（冬季）概要

「京町家のメンテナンス －大事な家を守るために気を付けるポイント－」

開催日時：令和５年２月２４日（金）　18:30～20:00
会　　場：オンライン（ZOOM）及び京都市景観・まちづくりセンター
　　ワークショップルーム
講　　師：木村 紀晃氏（京町家相談員（大工）、一級建築士、株式会社木村工務店）

「京町家で生け花を －京町家のくらしの文化体験－」

開催日時：令和５年３月４日（土）　14:00～16:00
会　　場：京町家 井山 百芳軒（中京区扇屋町）
　　※平成28年度京町家まちづくりファンド改修助成事業
講　　師：井山 万里子氏　（小原流京都支部）

京町家 井山 百芳軒

「京町家のメンテナンス －大事な家を守るために気を付けるポイント－」では、永く受け継がれている京町家で、快適に暮らしていくために欠かせない日頃のメンテナンスの重要なポイントを、講師の木村さんに解説していただきました。床の沈み、軋み、傾き、下水管の老朽化、雨漏り、シロアリ、腐朽などの問題に対して、危険な兆候を見極める方法、改修するタイミング、改修方法などを豊富な事例を交えて教えていただきました。

「京町家で生け花を －京町家のくらしの文化体験－」は、講師の井山さんのご自宅でもある「京町家 井山 百芳軒」を会場として開催しました。

井山さんにご指導をいただきながら京町家のオモテノマにて生け花を習い、次に生けた花を座敷の床の間に運び、床の間のしつらえを体験していただきました。

そのあとは、ご当主の井山和男さんより、建物に関する歴史や文化、京町家での暮らしについてのお話を聞くことができました。座敷には井山家に代々伝わる雛人形が飾られ、受講者は京町家での雛まつりの雰囲気を楽しみました。

生け花やしつらえを通じて、京町家での暮らしの文化の一端を体感することができたセミナーとなりました。セミナー終了時には受講者より「お住まいの方のお話も聞けて貴重な経験になりました」と感想をいただきました。

また当日は「町家の日Week」期間中で、このセミナーも開催イベントの一つとして「町家の日 2023」に参加しました。

オモテノマでの生け花体験の様子
（写真左：講師の井山さん）

座敷でのしつらえ体験の様子

ご当主（写真右）よりお話を伺う

京のまちづくり史連続講座（冬季）概要

1月13日（金）は「近代の非計画的市街地開発がつくる風景」と題して、京都大学大学院工学研究科建築学専攻助教 清山陽平さんにご講演いただきました。

主に昭和期以降、歴史的市街地の周縁部に開発された京都伏見・中書島南新地を中心に、個別の開発が、道や水路などを基準に互いのズレや食い違いをその都度調整することで、非計画的ではあるものの必ずしも無秩序ではない市街地が形成されていく様子について解説していただきました。

2月3日（金）は「オーバーツーリズムを越えて」と題して、龍谷大学政策学部教授の阿部大輔さんにご講演いただきました。オーバーツーリズムが地域や都市空間に何をもたらしたのか。民泊など宿泊施設の増加に対し、地域のまちづくり委員会が事業者側との協議により接点を見いだしていく事例を紹介していただくなど、規制強化や税導入などの政策的対応も含めて、今後の観光政策のあり方について考える講座となりました。

第27回 地域まちづくり・京町家の専門家紹介

「京町家は宝石」を伝え続けたい

当財団は多くの専門家の方々のご協力のもと、地域のまちづくりや京町家の保全・再生に関わる事業を行っています。このコーナーでは、豊富な経験や知識、また熱い想いをもって京都のまちに関わる専門家の方々をご紹介しています。今回は、不動産鑑定士の京町家相談員としてご活躍中のお二方にお話をお聞きしました。

（左）辻本尚子氏（右）木村綾乃氏
みやこ不動産鑑定所にて

辻本 尚子（つじもと なおこ） 氏 （株）みやこ不動産鑑定所 代表取締役／不動産鑑定士、税理士

京都市出身。平成10年（株）みやこ不動産鑑定所設立。
令和5年度より（公社）京都府不動産鑑定士協会会長。京町家相談員（不動産鑑定士）。

木村 綾乃（きむら あやの） 氏 （株）みやこ不動産鑑定所／不動産鑑定士、宅地建物取引士資格者

宇治市出身。生命保険会社勤務を経て、不動産鑑定業界へ転身。
京町家相談員（不動産鑑定士）、京都市空き家等対策協議会委員 等。

ー 不動産鑑定士の役割について教えてください

（辻本）高度経済成長期の不動産ブームや、バブル経済とその破綻など、土地価格の異常な高騰や急激な下落が起こった歴史がありますが、不動産鑑定士は、土地価格の状況を監視し、適正に鑑定・評価する役割を担っています。地価公示や地価調査のための評価や、路線価の評価のほか、不動産売買の際の評価や、地代・家賃の鑑定等、役割は多岐にわたります。

ー 京町家と関わるようになったきっかけを教えてください

（辻本）ある金融機関の方から、大型町家の継承について相談を受け、京町家を保全しようとする人々の姿を見たことがきっかけで、京町家に関心を持つようになりました。

（木村）今の事務所に入り仕事で関わるようになったことで、京町家には様々な価値があることを知りました。京町家の存在が、京都の街並みの独自性を生んでいることを実感しています。

ー 不動産鑑定士が京町家の保全・継承に関わる意義についてお考えをお聞かせください

（辻本）京都には、昔のままの低廉な地代・家賃のため、改修や設備更新がされていない京町家が多数あります。適正な賃料で貸し出すことで、適切な維持管理も可能になります。鑑定士としては、立地や広さに加えて、文化的価値に見合った賃料や価格を提示することが京町家の保全につながると思っています。

京町家を京都の文化を体現するものとして、その価値を鑑定士が示し、「京町家は宝石」ということを伝えることで、たとえ所有者が変わったとしても、京町家は継承されていくと考えています。

（木村）日本では、中古の建物に新築と同等のお金をかけることへの抵抗が大きいですが、鑑定士が古い建物にもお金をかける価値があることを知らせることで、京町家の保全・継承のお手伝いができるのではないかと思っています。

ー 京都への想いや、これからの活動についてお聞かせください

（辻本）事務所名に「みやこ」という文字を入れていますが、これは、京都の不動産を評価していきたいという気持ちを込めて命名したものです。鑑定評価という仕事は土地に根差す必要があります。これまで京町家保全に関する様々な活動をしてきましたが、これからも地道に、一人でも多くの人に京町家の価値を知ってもらいたいと思います。

（木村）これまで様々な土地に住んでみて、京都が特別な土地であることを感じ、京都で仕事をするようになりました。今後は、子どもたちにも京町家の素晴らしさを教えていきたいと思います。

みやこ不動産鑑定所・みやこ会計サービス

株式会社みやこ不動産鑑定所
HP https://miyako-kantei.com/

「郭巨山会所」の設計者 2023年日本建築学会賞（作品）受賞

一般社団法人日本建築学会より、技術・芸術の進歩に寄与する優れた作品として、「郭巨山会所」の設計者が2023年日本建築学会賞（作品）を受賞しました。「郭巨山会所」は令和3年度（2021年）京町家まちづくりファンド改修助成事業として、継承や改修に向けた協議をはじめ、改修工事を当ファンドで応援して参りました。設計施工に携わられた皆さま、所有者である公益財団法人郭巨山保存会の皆さま、栄えある受賞を誠におめでとうございます。

郭巨山会所の外観

祇園祭で賑わう会所

【本賞受賞の設計者】 魚谷 繁礼 氏（魚谷繁礼建築研究所代表／京都工芸繊維大学特任教授） 魚谷 みわ子 氏（魚谷繁礼建築研究所代表）
柳室 純 氏（柳室純構造設計代表）

私と京都

京都市副市長 坂越（さかこし） 健一（けんいち） 氏

令和4年4月に劇的な京都赴任内示を受け、7月に赴任して約1年が経過する。自分がどれほど貢献できたかは分からないが、22年ぶりの収支均衡と地下鉄運賃値上げ回避により最大ミッションは達成され、職員の努力により15年ぶりの都市計画の大幅見直し、全国初の空き家税の導入決定、全国初の市営住宅の目的外使用、交通の抜本的な混雑対策の導入、ふるさと納税収入の百億円弱・全国7位までの増加、企業誘致の本格化、文化庁の移転など、この1年で画期的な政策も一気呵成に実現し、京都市は大きな歴史的な転換点を迎えた。

元来、日本の宝の京都は底力、ポテンシャルが限りなくあり、京都が本気を出せばここまでのことができることが証明された。どの自治体も地域活性化、財政再建に全精力を傾けているが、大勢に影響がないのが実態の中、京都は違う。打てば響く、仕事のやりがいがあり、頑張りがいがある。

プライベートでは週末に自転車で京都中の史跡名所、市有施設等を巡りまくり、京北、大原2回、鞍馬2回、鈴虫寺3回、巨椋、淀など隈なく行き尽くしてしまった。最大業務ミッションも終え、余生をどう過ごそうかと悩む日々である。

京都は日本の宝であり、観光、文化、経済ともに、歴史的にもそうであったように、現代でも、京都の発展が日本の発展につながる。京都市民のため、さらには日本国民のために、皆で一緒に京都の更なる発展を実現していかねばならない。

その際、明治に天皇陛下が東京に移られ、市の人口が2/3に激減し経済危機を迎えた際、行政が琵琶湖疏水・水力発電・市電・各大学、経済界が博覧会・平安神宮、市民が番組小学校を実現し、京都の再生を達成したように、今回の歴史的転換点においても、全国で有数の実力を有する経済界、大学、市民、行政の資源を結集してそれぞれの主体が全力で取組むことが最大の成果につながる。そうなるように市は働きかけていかねばならない。

文化庁の移転を契機に、名実ともに文化首都としての京都を実現することが重要である。京都のみの利益でなく、日本文化全体への貢献。日本の文化、文化財、伝統工芸、職人、芸能・技術が集積する京都だからこそ、文化庁や民間団体と一緒になって、日本文化全体の底上げ、世界への情報発信の強化、各自治体文化の地方創生への寄与に貢献できる。例えば万博と文化の連動、国立文化財修理センターの設置、伝統芸能文化復元共同プロジェクトなど。名実ともに文化首都を実現することがひいては京都の成長戦略に掲げる文化と経済の融合にもつながる。

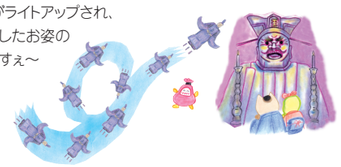
都市計画の見直しによる産業用地不足の解消を契機に、集中する各大学と連動して優秀な人材の獲得のしやすさを活かし、経済界と全面的にタイアップして、首都圏等からの企業誘致・立地を大幅に拡充し、雇用の拡充、学生の定着を図らねばならない。同時に、都市計画の見直しや全国初の各種住宅政策の導入を契機に、子育て・教育政策を一層充実し、子育て世代の定着、人口減少の反転を図らねばならない。

これらの最大課題の試金石となる1年となる歴史的転換点である。行政、経済界、大学、市民が今こそ結集して何としても京都の発展、日本の発展につなげたいものである。

表紙イラスト作者
アトリエ TAM **山口 珠瑛**（やまぐち たまえ）

絵本作家、イラストレーター。京都生まれ。京都育ち。
母の実家が仏光寺の近くの町家で、小さな頃よく町家で遊ぶ。
「町家えほん」「福ねこお豆のなるほど京暮らし」発売中。
ユーチューブで京の生活を発信中。
「ふくまめ京暮らし」で検索してくださいませ～

竹伐り会式
「京まち工房」103号が発行される6月20日に鞍馬山で
「竹伐り会式」（たけきりえしき）が行われるんやね～
僧兵のいでたちの鞍馬法師らが大蛇に見立てた青竹を丹波座と
近江座の二手に分かれ、山刀で一気に伐る早さを競うんやて
それで豊作を占うんやねぇ
水への感謝と吉事の招来を祈る行事やね～

五山の送り火
お盆に戻って来られたお精霊（おしょうらい）さんに、毎日違うものをお供えしますぇ
8月13日は「お迎えおだんごやくだもの」14日、15日は「おはぎや白むし」
16日は「アラメとおあげさんの炊いたんとごはん」をお供えしますぇ
16日のアラメのゆで汁は家の前にまいて、
今日があの世にお帰りの日やとお伝えしますぇ
お精霊さん、また来年お戻りくださいませ～

千本ゑんま堂（（引接寺・いんじょうじ））風祭り
7月1日から千本ゑんま堂で行われる「風祭り」
引接寺は風の祖・小野篁が開いたと言われるお寺で、小野篁がこの世と
あの世の間に風を起こし、えんま様を招来したと言われてますのぇ
本尊の閻魔法王がライトアップされ、
風に袖をひるがえしたお姿の
小野篁がおられますぇ～